

IT資産管理・ソフトウェア資産管理 の本当のこと

～あなたの知らないIT資産管理の世界～

株式会社クロスビート

2018年4月26日

IT資産管理って知っていますか？

IT資産管理って知ってますか？

3



ISO/IEC 19770-X シリーズ (ITAMの規格群)

4

概要

19770-5:2015 Overview & Vocabulary

無償ダウンロード可 <http://standards.iso.org/iso/19770/-5/>

プロセス

19770-1:2012 (2nd edition) Processes & Tiered Assessment Conformance

19770-1:201x (3rd edition) Requirements IS

19770-8:201y Guidelines for Mapping of Industry SAM Practices with the 19770 family CD

19770-11:201y Guidelines for IT Asset Management System Auditing NP

情報構造 (タグ)

S/W Identification

19770-2:2015 (Rev. of 2009)
S/W Identification Tag

19770-22:201x
Guide to Cyber Security

Device Identification

19770-6:201x

Entitlement

19770-3:2016
Entitlement Schema

Usage

19770-4:201x IS
Resource Utilization Measurement

凡例:

出版済

開発中

計画中

Standard

Tech. Report

JIS化予定

ソフトウェア資産管理基準・評価規準

5

各所のIT資産管理システムやサービス調達時の仕様に記載



IT資産管理に関連する各種団体

6

SAMAC

日本にあるIT資産
管理を推進する最
大の社団法人

BSA

米国に本部を持
つ、権利者団体

JIS

国際基準を基に、
国内基準を策定し
推進する団体

IAITAM

米国に本部を持つ、
米国管理方式を提
唱する団体

JIPDEC

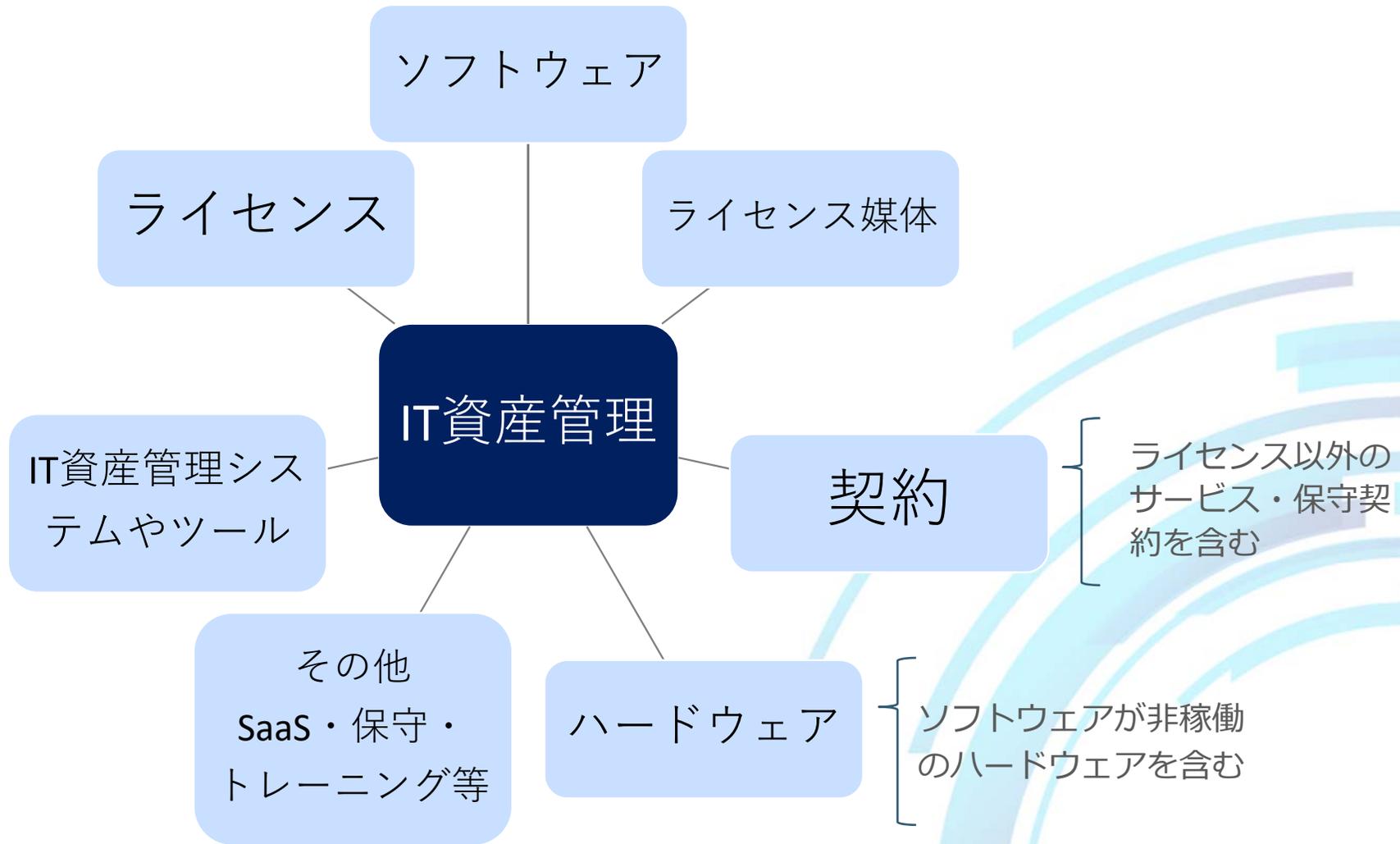
PマークやISMSを
推進している、
元経産省の外郭
団体

ITSMF

英国に本部を持つ、
ITIL®を推進する団体



IT資産管理の範囲



ハードウェアがなくなった！

- なくなったものは誰がどのように利用していたのか？
- なぜなくなったことがわかるのか？

セキュリティホール？？

- 組織内で利用しているソフトウェアはすべてサポート期限内か？
- 利用しているソフトウェアに脆弱性はないか？ → 利用しているソフトウェアはすべて把握できているか？

仮想環境は？？

クラウドによるデータの保存先は？？

IT資産管理とITコスト

9

他の部署で使えるハードウェアはないか？

遊休となっているハードウェアはないか？

リースの延長ができるマシンはないか？

- どこに何があるか？
- どこで、誰が、どのような目的で、マシンを使っているのか？

インストールされているソフトウェアはどれくらい使われているのか？

同じような機能のソフトウェアが使われていないか？

- 調達しているライセンスは適切なものか？
- 保有しているライセンスはどれくらい使われているか？

入れ替え計画が適時に策定できるか？？

同じようなサービスが利用されていないか？？

- パブリッシャーからの監査請求に適時に対応できる状態になっているか？



PCは、想定している保有数の1.2倍～1.3倍



利用されているソフトウェアの種類は、保有台数の2倍から3倍（2000台の場合）



保有していることを証明できないライセンスは全体の2割～4割

IT資産管理ツールの市場規模

IT資産管理ツール
約460億円
(矢野経済研究所)

- ワークロードスケジューリング／オートメーションソフトウェア
- 変更／構成管理ソフトウェア
- ITイベント／ログ管理ツール
- パフォーマンス管理ソフトウェア
- 出力管理ツール
- 問題管理ソフトウェア
- ネットワーク管理ソフトウェア
- ネットワークインフラストラクチャソフトウェア

運用管理ツール
約3500億円
(IDC)

情報セキュリティツール
約5100億円
(NPO法人日本ネットワーク
セキュリティ協会)

- 統合型アプライアンス 249億円
- ネットワーク脅威対策製品 703億円
- コンテンツセキュリティ対策製品 1862億円
- アイデンティティ・アクセス管理製品 930億円
- システムセキュリティ管理製品 774億円
- 暗号化製品 581億円

「ツール」の市場規模 in 2017

16

情報セキュリティツール
約5100億円
(NPO法人日本ネットワーク
セキュリティ協会)

運用管理ツール
約3500億円
(IDC)

IT資産
管理
ツール

認知度が上がれば意識が変わる
意識が変われば、市場が拡大

JISQ 0164-1 : 2017

- IT資産管理の認証規格

SAMACの認知度向上

- ITAM Worldやライセンスセミナー、会員数の増加

台帳システムの普及

- IT資産管理の有効性の認知

情報セキュリティサービス
約4700億円
(NPO法人日本ネットワーク
セキュリティ協会)

- 情報セキュリティコンサル
テーション 872億円
- セキュアシステム構築サー
ビス 1458億円
- セキュリティ運用・管理
サービス 1903億円
- 情報セキュリティ教育
308億円
- 情報セキュリティ保険
156億円

IT資産管理の難しさ

「難しさ」を理解する難しさ

20

把握の難しさ

ハードウェアの把握

ソフトウェアの把握

ライセンスの把握

相関関係の難しさ

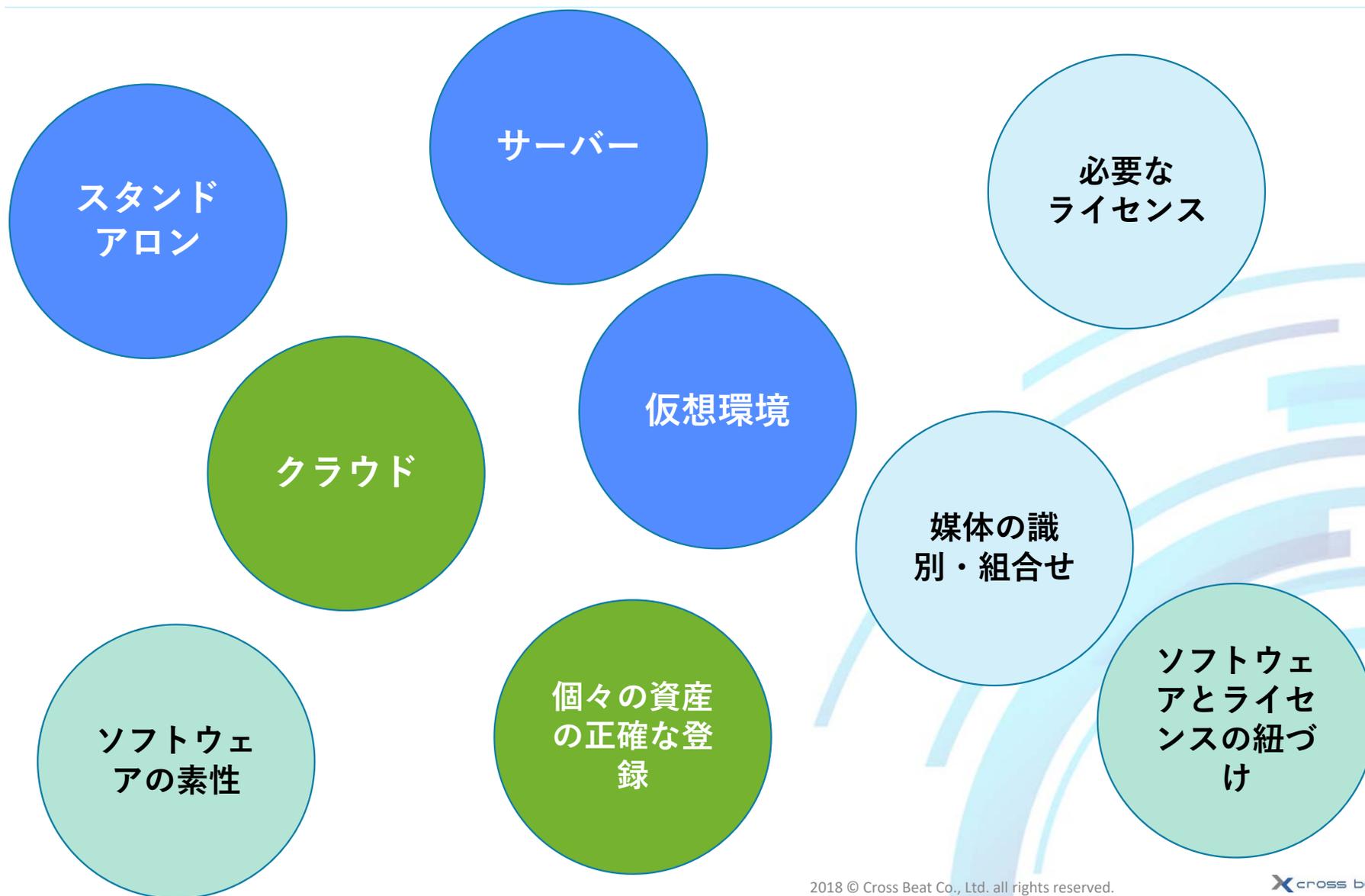
各資産の関連性や
制限

ソフトウェアライ センスの難しさ

ライセンス種別

カウント種別

ライセンスオプション



相関関係の難しさ

ライセンス媒体管理台帳	
項目名	区分
ライセンス媒体管理番号	必
ライセンスID	必
ソフトウェアリストID	必
保有ライセンス媒体名	必
インストールキー/CDキー	△
導入年月日	
導入申請番号	
保管場所	
現管理部門名	必
現管理者名	必
前管理部門名	
前管理者名	
複製区分	△
複製元ソフトウェア媒体管理番号	△
廃棄申請番号	
廃棄年月日	必
備考	
最終更新日	
最終更新者名	

必：必須項目
△：ある場合には必須項目

ライセンス管理台帳	
項目名	区分
ライセンスID	必
ソフトウェアリストID	必
現使用数	必
保有ライセンス数	必
ライセンス契約種別	必
ライセンス証書番号	△
アップグレード区分	△
元ライセンスID	△
ダウンロード条件	
ライセンス単位	必
使用許諾証明	
使用可能本数	
契約期限	△
導入年月日	
導入申請番号	
現管理部門名	必
現管理者名	必
前管理部門名	
前管理者名	
廃棄申請番号	
廃棄年月日	必
備考	
最終更新日	
最終更新者名	

ソフトウェア管理台帳	
項目名	区分
ソフトウェアID	必
ハードウェア管理番号	必
ライセンス媒体管理番号	必
インストール名称	必
ソフトウェアリストID	必
導入申請番号	
備考	
最終更新日	
最終更新者名	

ハードウェア管理台帳	
項目名	区分
利用区分	必
ハードウェア管理番号	必
ライセンスID (OS)	必
OS名	必
メーカー名	必
機器種別	
型番	必
コンピュータ名	
CPU数 (物理数)	△
CPU数 (コア)	△
CPU名	△
設置場所	必
導入年月日	
導入申請番号	
現管理者名	必
前管理部門名	必
前管理者名	
廃棄申請番号	
廃棄年月日	必
備考	
最終更新日	
最終更新者名	

ソフトウェア辞書 (Master)	
項目名	区分
マスター辞書ID	必
インストール名称	
ソフトウェアベンダー名	
正式ソフトウェア名	
バージョン名	
エディション名	
ソフトウェア種別	
備考	

変換

ソフトウェア辞書	
項目名	区分
辞書ID	必
マスター辞書IDの先頭	必
ソフトウェアベンダー名	
正式ソフトウェア名	
バージョン名	
エディション名	
ソフトウェア種別	
備考	

ソフトウェアリスト	
項目名	区分
ソフトウェアリストID	必
辞書ID	必
ソフトウェアベンダー名	必
インストール名称	△
正式ソフトウェア名	必
バージョン名	必
エディション名	必
ソフトウェア種別	必
ソフトウェア区分	必
使用開始日	
導入申請番号	
使用終了日	
備考	
最終更新日	
最終更新者	

ライセンスの難しさ

23

デバイス
ライセンス

ユーザー
ライセンス

クライアント
アクセス
ライセンス

サイトライ
センス

セカンド
ライセンス

CPU
ライセンス

クラウド
ライセンス

アカデミッ
クライセン
ス

アップグ
レード

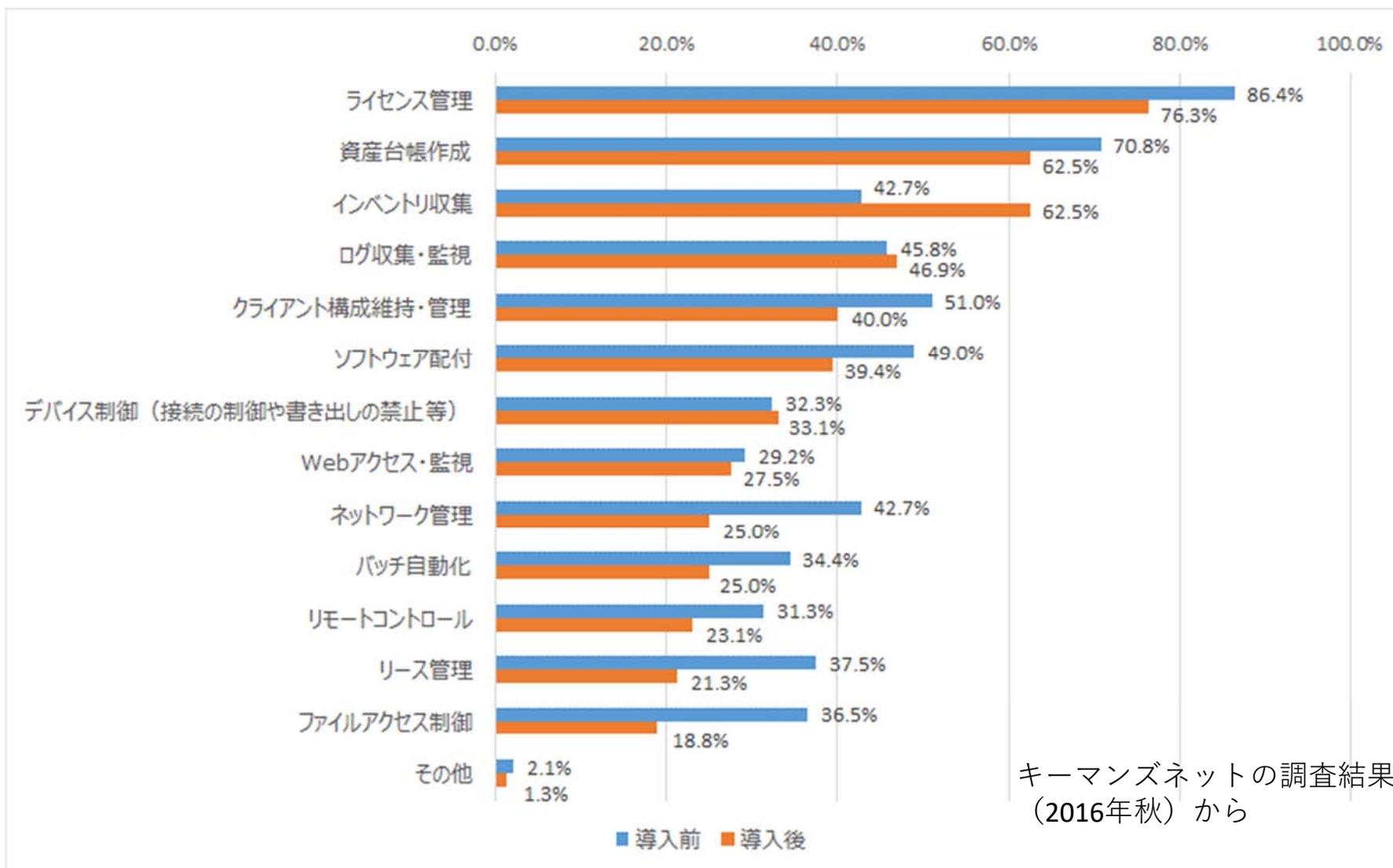
ダウング
レード

サブスクリ
プション

コンカレン
トライセン
ス

IT資産管理ツールの導入目的

24



キーマンズネットの調査結果
(2016年秋) から

- 1.** ライセンス管理と資産台帳作成の%が下がっている理由
- 2.** インベントリー収集が増えている理由
- 3.** ログ収集・監視とWebアクセス・監視の%が変わらない理由

日本のツールはニーズとかい離

26

セキュリティをうたい文句とした機能が多く、SAMはその他扱いとなっている

セキュリティを謳い文句としているが、例えばUSBポート制御やログ収集・分析などがメインとなっている

機能の拡張競争により、差別化がほとんどされていない

SAMを実行するための機能はほとんど実装されていない

何を使っても、どこを見てもあまり差異が見られない＝スーパーマーケット化

「SAMツール」として販売

- ライセンス管理・ライセンスコストの最適化・監査対応を前面に押し出して機能強化しており、SAM に特化したツールとなっている
- SAM を実行する上での「専門店」化した機能を充実させており、監査レポート機能や、特定のソフトウェアに限定して監査レポート保証のような機能を持っているものもある

海外のSAMツールの問題点

- 原則として、集中管理を前提としていること
- スタンドアロンを前提としていないこと
- サポート体制が弱いこと
- コンサルティングコストが高額なこと

ハイブリッド分散管理に対応する必要があること

- 各部門に割り当てられた管理者が、割り当てられた範囲内で管理が実行できること

様々なライセンスが管理できること

- パッケージやプリインストールなど、日本で特異なライセンスにも対応した上で、サイトライセンス、ユーザーライセンス、セカンドライセンスなどにも対応すること

専任の管理者がいない前提で運用が可能な仕組みであること

- 管理者の業務負荷を軽減し、且つ、適切な管理が実現できること

インベントリーツール

- 現在利用されている資産の状態を把握するもの

SAMシステム

- 現在の状態が、組織として望ましい状態と合致しているかを把握するもの

管理ノウハウ

- IT資産管理を効果・効率的に行うために必要な知見を持ち、継続的に改善できること

運用サポート

- ハードウェアやソフトウェアの利用に関する適切なアドバイス、現状の管理状況の的確な分析、適切なライセンス調達提案、監査請求時の支援などがあること

SAMシステム

「ツール」から「システム」へ

➤ソフトウェア資産管理（Software Asset Management.以下「SAM」）を構築・運用するに当たっては、

- インベントリツール
- SAMシステム

• などを利用することが一般的

➤これまでは、インベントリツールの導入だけが検討されてきたが、ライセンスコンプライアンスに適切に対応し、且つ効率的に運用できることを求め、5年前の石川県より、SAMシステムと呼ばれる新たな仕組みが調達仕様に記載されるようになってきた（自治体では宮崎県・沖縄県・横浜市・大阪市・山梨県・茨城県・北海道庁など）

➤ソフトウェアベンダーがSAMの成熟度評価を行ったり、ライセンス監査の際にSAMの成熟度達成を要求したりするようにもなっていることから、これに対応するためのSAMシステムの導入がトレンドになりつつある。



SAMシステムとは？

32

- 管理台帳を保持している
- 台帳に記録されている情報の更新履歴を保持している
- 台帳を更新するための簡単なワークフローが実装されている
- インベントリーツールと連携する
- コンプライアンスへの対応を主眼とした各種アラートの配信などを備えている
- ライセンスの種別並びに使用許諾条件に応じた管理ができる

Work
Flow

更新履歴

アラート

ハードウェア
管理台帳

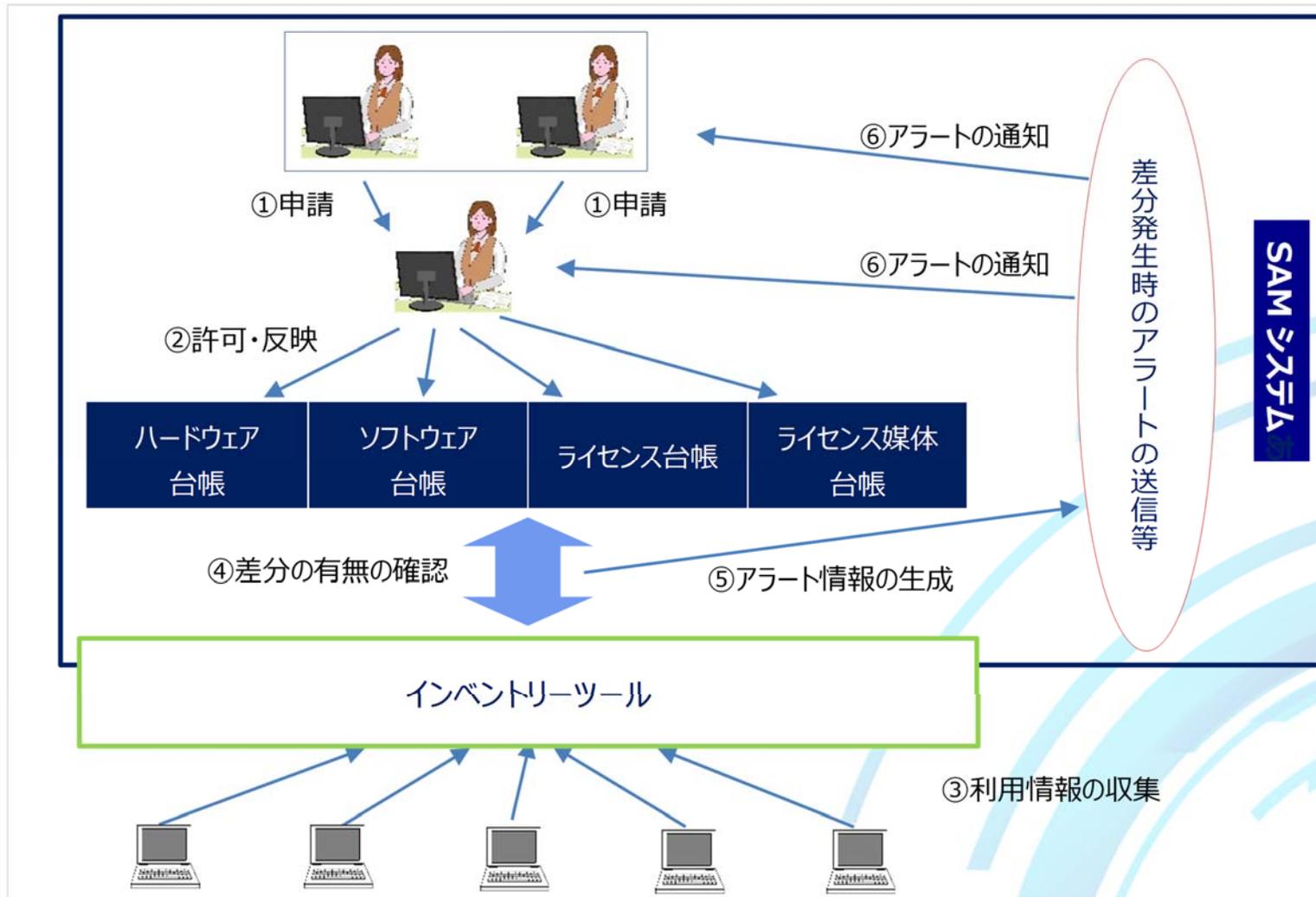
ソフトウェア
管理台帳

ライセンス
管理台帳

各種管理台帳

インベントリーツール

SAMシステムのイメージ



SAMシステム、作りました

1. 現状把握の実体験

- 少なくとも5社以上の現状把握の実体験が必要

2. 管理体制構築の実体験

- 少なくとも10社以上の現状把握の実体験が必要

3. 管理の基準となるべき知識

- ISO/IEC 19770シリーズ（特に19770-1）
- ソフトウェア資産管理基準・評価規準

- 延べ150件を超えるコンサルティング実績、並びに豊富な台帳システム導入支援実績による他社ツールに対する顧客クレームの認知
- BSAの管理規程ひな形の作成
- BSAのモデル自治体のコンサルティング
- マイクロソフト社のSAMサービス成果物ひな形作成
- SAMACの公認SAMコンサルタント研修資料の作成
- IT資産管理のISOのワーキングメンバーであり、今般の認証システム化の際のワールドワイドでの副編集長
- SAMAC初代理事長
- JIPDECのIT資産管理評価検討委員会委員長
- 19770シリーズJIS化の際の幹事
-
-

- ライセンスカウントやアラートの調整など、これまでのユーザーストレスを解消する様々な機能を実装
- 保守サービスの充実
 - バージョンアップ対応
 - ライセンス監査対応
 - 運用状況分析、改善提案 など
- ユーザーカンファレンス（仮称）に基づく機能追加
- SaaS型とオンプレミス型があり、SaaS型の場合、3か月間の無料試用可能

他社SAMシステムとの機能比較（2018年1月現在）

製品	管理台帳				ライセンス利用状況チェック				アラート			
	ハードウェア	ソフトウェア	ライセンス	ライセンス媒体※1	デバイスライセンス	ユーザーライセンス※2	セカンドライセンス※2	CPUライセンス※3	AdobeCC・Office365等※3	アラートの有無	アラートの制御	
ADVANCE Manager	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
A社	○	○	○	○	○	△	×	×	×	○	△	
B社	○	○	○	×	○	△	×	×	×	○	△	
C社	○	○	○	○	○	△	×	×	×	○	△	
D社	○	○	○	×	○	△	△	×	×	△	×	

ADVANCE Manager の実績

- 販売開始：2017年5月中旬
- 現行バージョン：1. 1
- 現在のお客様
 - 神戸市教育委員会様：約2万台 / お客様からのご指定
 - 宮崎県庁様：約7千台 / 5年間利用したシステムの乗り換え
 - 株式会社オージス総研様：約7千台 / 他社競合
 - 広成建設株式会社様：約2千台 / お客様からのご指定
 - JAおきなわ様：約4千台 / 訪問回数2回でご決定

販売パートナー様

OEMパートナー様

ソリューションパートナー様

開発パートナー様

パートナー様大募集中

【お問い合わせ】

株式会社クロスビート

TEL:03-6454-3281

e-mail:advancemgr@x-beat.biz

(担当：篠田・小野)